

足立区長選挙 子育て政策調査

1. 遊び場について

千葉大学の研究で小学生の約8割が平日に一度も外遊びができないと回答しています。足立区は公園が他の区に比べ多くありますが、子どもたちが活用できていないという実態もあります。子どもたちの遊びに大切な「時間、空間、仲間」を増やしていきたいと考えていますか？



近藤 やよい
無所属(64歳)



絶対に増やす



増やしたい



あまり増やす気はない



増やす気はまったくない

公園でできるボール遊びのルールを熟知していく。プレイパークの充実 等



西山 ちえこ
無所属(65歳)



絶対に増やす



増やしたい



あまり増やす気はない



増やす気はまったくない

ボール遊びなどができる公園を増やします。後継者不足でなくなりそうな農地を子どもたちが体験できる農場体験の場にしたり、市民の農園へと転換していきたい。

2. 多子世帯について

極端な少子化傾向の一方で、多子世帯の子育ての困難さが浮き彫りとなっています。現在、足立区では二人目以降の子育て支援が行われていますが、今後多子世帯の子育て支援をさらに行いたいと考えていますか？



近藤 やよい
無所属(64歳)



絶対に支援したい



支援したいと考えている



積極的な支援は考えていない



必要ない

第2子の0歳から2歳の保育料の無償化を検討していく。また、学校給食費においては、無償化は子育て支援策の一環として継続実施すべき施策と考えているため、多子世帯だけでなく、小学校の給食費無償化の早期実現に向けて、引き続き検討していく 等



西山 ちえこ
無所属(65歳)



絶対に支援したい



支援したいと考えている



積極的な支援は考えていない



必要ない

学童保育の施設の拡充と充実を行います。小学校においても給食費の無償化を行い、多子世帯の負担を軽減していきます。

3. いじめについて

足立区ではいじめの認知件数が少しずつ減少してる状況にはありますが、まだまだ多くの子どもたちが苦しんでいます。そのような子たちをさらに減らすために、さらなるいじめ対策を行いたいと考えていますか？



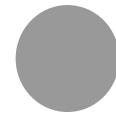
近藤 やよい
無所属(64歳)



絶対に行いたい



行いたいと考えている



積極的に行おうと考えていない



必要ない

いじめのアンケートをWEB形式に変更し、早期発見と分析の迅速化を進める、学校いじめ防止対策委員会での効果的ないじめ対策を推進する 等



西山 ちえこ
無所属(65歳)



絶対に行いたい



行いたいと考えている



積極的に行おうと考えていない



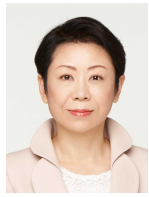
必要ない

区財政を使って、教員の配置数を増やし、教員の目がこまめにいきわたる体制をつくっていきます。子どもが直接相談できるような子どもホットラインの充実を図ります。

4. 不登校について

足立区では、令和3年度の不登校児童・生徒数は996人であり前年度と比べ19名増えています
(こども支援センターげんき)。

個に応じた不登校対策など、不登校に対する認識や対応が大きく変わっている中、
これらの拡充や新たな対策支援を行いたいと考えていますか。



近藤 やよい
無所属(64歳)



絶対に行きたい



行いたいと考えている



積極的に行おうと考えていない



必要ない

オンラインを活用した支援、どうしても登校できない子どもへのメタバース登校等の支援 等



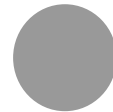
西山 ちえこ
無所属(65歳)



絶対に行きたい



行いたいと考えている



積極的に行おうと考えていない



必要ない

教育相談員の定員を増やし、行き届いた相談活動ができるようにします。同時に、小中学校に常駐のスクールカウンセラーを置けるような予算措置を行います。

5. 外国人の子育てについて

外国にルーツをもつ子どもの数が年々増えている一方、日本での子育てに不安を抱いている現状があります。
足立区では、日本語学習支援事業を委託して実施していますが、
外国人の子育てについて、これらの拡充や新たな支援を行いたいと考えていますか？



近藤 やよい
無所属(64歳)



絶対に行きたい



行いたいと考えている



積極的に行おうと考えていない



必要ない

外国ルーツの子どもの居場所を区内1カ所から3か所に拡大【サテライトを設置する】 等



西山 ちえこ
無所属(65歳)



絶対に行きたい



行いたいと考えている



積極的に行おうと考えていない



必要ない

今後、ますます外国にルーツをもつ子どもの数が増え続けることが予想されます。外部への委託ではなく、区として小中学生に対する日本語学習支援学校を設置し、日本語教育の専門家の育成していきます。

6. LGBTQ+について

認定NPO法人の調査によると、10代のLGBTQ+の48%が自殺念慮があるという結果があります。
LGBTQ+の子どもたちが生きやすい環境づくりをしていきたいと考えていますか？



近藤 やよい
無所属(64歳)



絶対に行きたい



行いたいと考えている



積極的に行おうと考えていない



必要ない

令和3年度に作成した、「多様性に関する困りごと対応マニュアル」を活用し、LGBTの子どもへの対応を周知。
校内委員会等で特に注意が必要な子どもの情報共有、当事者や支援者等のため LGBT相談窓口を設置、区内学校や企業等への出前講座及び男女参画プラザでの講座を開催して周知 等



西山 ちえこ
無所属(65歳)



絶対に行きたい



行いたいと考えている



積極的に行おうと考えていない



必要ない

性の多様性、人権についての包括的性教育を小学校の段階から継続的に行うとともに、教職員等の研修を定期的実施します。専門性を有する相談窓口の設置・強化を行います。

7. ひとり親家庭について

足立区では、ひとり親家庭への支援策として児童扶養手当や医療助成制度などの金銭面にとどまらず、サロン豆の木や豆の木メールなどひとり親が孤立せず周りに相談できる環境づくりに努めています。一方で行政の支援だけではなかなか手が届かず、孤立状態にあつて子育てや生活に苦しんでいる家庭も多くあります。NPO等と連携して草の根の支援を行っていきたくと考えていますか？



近藤 やよい
無所属(64歳)



積極的に行いたい



行いたいと考えている



積極的に行おうと考えていない



必要ない

ひとり親支援では NPO 連携が重要であると考え、サロン豆の木の交流事業は、2つの NPO 法人に事業運営委託を行い連携している。今後さらなる連携を強化していく 等



西山 ちえこ
無所属(65歳)



積極的に行いたい



行いたいと考えている



積極的に行おうと考えていない



必要ない

自分を支援してくれた団体は、ひとり親家庭や貧困家庭を支援する活動を行っているので、さらに草の根の支援活動を強化していきます。

8. ヤングケアラーについて

現在ヤングケアラーは中学2年生においては5.7%、全日制高校2年生においては4.1%存在する実態があります(ヤングケアラーの実態に関する調査研究について)。このようなヤングケアラーに対して支援を行いたいと考えていますか？



近藤 やよい
無所属(64歳)



積極的に行いたい



行いたいと考えている



積極的に行おうと考えていない



必要ない

ヤングケアラーの早期発見・早期把握のため、養育支援訪問事業やスクールカウンセラーにつなげていくとともに、東京都が示した支援マニュアルを活用して、要保護児童対策地域協議会を中心とした関係機関おける支援に繋げていく 等



西山 ちえこ
無所属(65歳)



積極的に行いたい



行いたいと考えている



積極的に行おうと考えていない



必要ない

教育の機会均等という憲法上の理念からも、介護の負担を未成年者に負わせるような現状を変えていかなければいけません。公的な支援を行い、どの子どもも同じように教育を受けられる機会を保障します。

9. 学童保育について

学童保育の待機児童や放課後格差が話題になる中、待機児童ランキング上位の足立区では補助の出ない民間学童に通う、隠れ待機児童家庭が400家庭を超えていると言われています。他の自治体では民間学童に通う家庭に補助が出るなどの支援策がありますが、足立区でもそういった柔軟な子育て支援策を行いたいと考えていますか？



近藤 やよい
無所属(64歳)



積極的に行いたい



行いたいと考えている



積極的に行おうと考えていない



必要ない

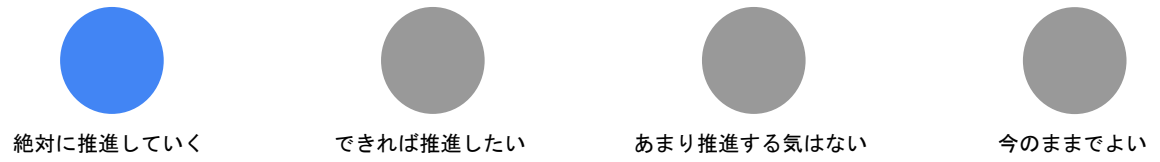
民間学童支援を行っている先行自治体の例に倣い、施策の充実を図ります。

10. 学校教育について

通知表や宿題に代表される、画一的な教育によって苦しんでいる子や、学校にいけなくなる子が増えています。子どもたち一人ひとりに合った学校教育を推進していきたいと考えていますか？



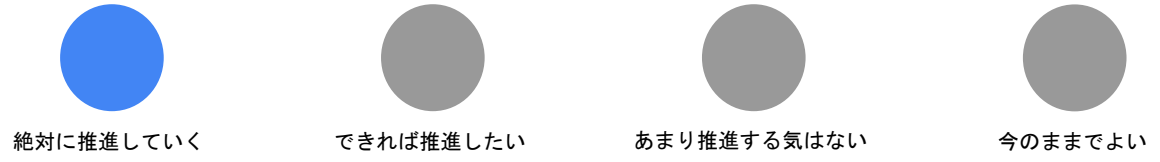
近藤 やよい
無所属(64歳)



通知表は教育委員会では基本的なフォーマットのみ提案し、各校の特色を出すよう伝えている。学校教育は画一であるべきでないよう各校に指導し、個々に応じた教育を推進していくことは強く要請している



西山 ちえこ
無所属(65歳)



学校教育における多様性を担保するため、小中学校教員が教育に専念できるように、さらなる少人数学級の実現や、小学校においては専科の教員を増やしていきます。